

## ②旧名城キャンパス文学部三号館(明治村旧歩兵第六聯隊第十中隊兵舎)

戦前の名古屋帝国大学には文系学部がありませんでしたが、敗戦直後から文・法・経済の文系三学部を新設しようという動きが occurred。1947年10月に帝国大学の名称がなくなり、名古屋大学(旧制)になると、この文系学部の設置が具体的に検討されるようになりました。そこで文系学部のキャンパス予定地として、名古屋城二の丸内にあった旧歩兵第六聯隊兵舎を取得(名城キャンパス)、1948年6月にまずは大学本部事務局が移転しています。

文系学部設置には紆余曲折がありました。結局同年9月に文学部と法経学部が設置され(ともに旧制、法経学部は1950年3月に法学部と経済学部に分離)、翌1949年4月には教育学部(新制)も新設されました。このうち、旧名古屋高等商業学校を母体とする法経学部経済・経営学科を除いた、文学部、教育学部、法経学部法律・政治学科が名城キャンパスにつくられました。このキャンパスはその後、1963年に東山キャンパスへ移転終了するまで使用されました。

1965年に名城キャンパスにあった旧校舎のうち文学部三号館だけが、博物館明治村(愛知県犬山市内山1)へ移築されました。この建物には二階に東洋史・西洋史・国史(日本史)、一階に地理・考古・独文・英文の各研究室などが入っていました。ただ、明治村に現存のものは、明治期の建物名である旧歩兵第六聯隊兵舎の名称となっています。また明治村へ移築の時に建物が縮小されており、さらに建物の色も灰色であったのが、現存では鮮やかな白となっています。文学部三号館の面影ではなく、それより以前の旧歩兵第六聯隊兵舎の趣きで改装されて残されたのは、「明治」村である以上しかたありませんが、名古屋大学にとってはちょっと残念な気がしますね。



▲旧名城キャンパス全景  
(数字号館は文学部建物、1959年)



▲旧名城キャンパス当時の文学部三号館  
(後ろの建物)



▲明治村旧歩兵第六聯隊兵舎  
(旧文学部三号館)



▲旧名城キャンパス



▲明治村